

多様で曖昧な「範囲」

文人の 武蔵野



武蔵野市など「武蔵野」の名を冠した地名や文物は数多い

「武蔵野」とは ①

これまで、本紙武蔵野版と多摩版で武蔵野と文人の関わりについて考察してきましたが、今月からは、都内全域に掲載エリアが広がることになりました。改めて、よろしくお願ひします。

さて、リスタートにあたり、「武蔵野とはどこからどこまでを指す地名なのか？」について考えてみたいと思います。

これまで本連載をお読みいただいていた方はお気づきかと思いますが、「武蔵野」の範囲を明確に定めることは困難です。2月27日付本紙都民版に掲載された「武蔵野とはどの辺りを指す？ 区分なし

小説でも様々 独歩、太宰、清張：『独自の武蔵野』という特集記事でも、辞書の記述の曖昧さと共に、その困難さが示されました。

「区分なし 小説でも様々」であっても、辞書には定義を記す使命があります。辞書類が武蔵野の範囲を記述する際に手がかりにしてきたのは、「武蔵国」と「武蔵野台地」でした。定説が存在せず、武蔵野の起源や由来を明らかにすることができないので、類似する用語を参照して置き換えた説明がなされてきたのです。

辞書の記述の不確かさは、「武蔵野」の使われ方の曖昧さや、多様さとも関連しています。例えば現在の日本には、「武蔵野線」や「武蔵野市」などが表象する公共性の高い「武蔵野」がたくさんあります。

すが、それぞれに漠然とした根拠や思いがあり、主観的な心象地理とその記憶が投影されています。

「武蔵野の範囲とは？」という問いは、本連載の根幹と大きくかわる重要な問いです。これまでの連載で書いたことと重複することもあるかもしれませんが、次回以降、もう少しこの問いについて述べておきたいと思ひます。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

＊

多くの文学で描かれた武蔵野。土屋忍・武蔵野大教授の寄稿で、文人と武蔵野の関わりをたどります。毎週木曜日の掲載予定です。読者の掲載予定です。読売新聞オンラインでもお読みいただけます。スマートフォンはQRコードから。

